

# 令和3年度 学校評価計画

石川県立金沢中央高等学校夜間制

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判定基準	評価の基準	備 考
1	生徒の実情に応じた学び直しによる基礎学力の定着を確かなものにするとともに、ICT活用、アクティブラーニング、ユニバーサルデザイン化等を推進することで学力向上を図る。	教務課 生徒指導課	授業が分かることで発言できる機会が増え、自ら授業に参加しているという意識が高まってきている。	【成果指標】 学ぶ意欲をもち、学習に真面目に取り組もうとする生徒を増やす。	○疑問を質問したり、自ら調べる生徒が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 80%以上90%未満である。 D. 80%未満である。	C, Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。	7月、12月に調査する。
		教務課	ICT機器の効果的な使用について研修を行い、日々の授業で積極的に活用している。生徒の実態に応じた効果的な使用がさらに求められている。	【努力指標】 ICT機器利用をより効果的に用いて、生徒の理解が進むよう授業改善に努める。	○ICTが効果的に利用されていると思う生徒が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 80%以上90%未満である。 D. 80%未満である。	C, Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。	7月、12月に調査する。
2	卒業までを見通したキャリア教育に組織的に取り組み生徒の希望進路を実現する。	進路指導課 学年	卒業生5名のうち4名が、卒業後も就職・臨時的な就業等で社会とつながりをもっている。	【成果指標】 年度末には卒業生の進路先が内定する。	○卒業生徒の進路内定率が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 85%以上90%未満である。 D. 85%未満である。	C, Dの場合、その原因を分析し取り組みを再検討する。	年度末に調査する。
		進路指導課 学年	不登校経験者や、対人関係が苦手な生徒は学校生活だけで目一杯のところがあるが、年次が上がるほど適応力がつき自信が芽生えている。	【成果指標】 就業している生徒の比率を高める。	○就業している生徒の合計が全生徒中の A. 70%以上である。 B. 60%以上70%未満である。 C. 50%以上60%未満である。 D. 50%未満である。	C, Dの場合、その原因を分析し取り組みを再検討する。	年度末に調査する。
3	規範意識の育成、教育支援の充実、外部機関との連携により安心安全な学校づくりを推進する。	総務課	学校行事や教育活動の周知を図るためウェブサイトを活用しており、更新が約3回/月となっている。	【努力指標】 ウェブサイトの内容を定期的に更新することにより、アクセス回数の増加を図る。	○年間更新回数が A. 40回以上である。 B. 25回以上40回未満である。 C. 15回以上25回未満である。 D. 15回未満である。	C, Dの場合、その原因を分析し取り組みを再検討する。	年度末に集計する。
		生徒指導課	昨年度は無断早退が3件であった。授業ルールを確認する指導を行っている。	【成果指標】 無断早退ゼロを継続する。	○無断早退の件数が A. 0件である。 B. 1件以上5件未満である。 C. 5件以上10件未満である。 D. 10件以上である。	B, C, Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。	7月末に中間集計を行い前年度と比較する。
		生徒指導課	いじめの件数は0件であった。日頃から、他の個性を尊重し認め合う心を育むよう指導している。	【成果指標】 いじめを未然に防ぐ。	○いじめの件数が A. 0件である。 B. 1件である。 C. 2件である。 D. 3件である。	B, C, Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。	年2回アンケート調査を実施する。
		保健給食課	自分自身の健康について管理が難しい生徒がおり、保健だよりの配布とともに個別指導を継続している。	【成果指標】 自らの健康管理を行うことができる。	○睡眠時間が7時間以上の生徒の割合が、 A. 70%以上である。 B. 50%以上70%未満である。 C. 30%以上50%未満である。 D. 30%未満である。	B, C, Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。	7月と12月アンケート調査を実施する。
4	スポーツ活動や文化活動、ボランティア活動等とおして自主・自立・助け合いの精神を備えた活力ある生徒を育成する。	生徒指導課 (生徒会)	昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からほとんど実施できなかった。感染症対策を十分行い、行事を行っている。	【成果指標】 生徒会行事の参加率が向上する。	○生徒の生徒会行事の参加率が A. 90%以上である。 B. 80%以上90%未満である。 C. 70%以上80%未満である。 D. 70%未満である。	C, Dの場合、その原因を分析し活動内容を検討する。	年度末に調整する。
		生徒指導課 (生徒会)	夜間の活動のため、参加に制限があるのが現状である。	【成果指標】 部活動の参加率が増加する。	○部活動の実施日のうち部員が活動した日数が A. 90%以上である。 B. 80%以上90%未満である。 C. 70%以上80%未満である。 D. 70%未満である。	C, Dの場合、その原因を分析し活動内容を検討する。	年度末に調整する。
業務改善と効率的な働き方の推進	・ICT等を使って提示する教材の共有をさらに進める等の授業改善や業務の精選を推進する。 ・定時退庁日の提示等により、勤務時間を意識した働き方を浸透させる。	教頭	月ごとの集計で時間外勤務が大幅に超過している職員はなく、有給休暇の消化も良好である。業務改善のために、机上や職場環境の整理整頓をすることが求められる。	【成果指標】 学校全体として業務の効率化が進んでいると感じている教職員の割合が増加する。	○学校全体として業務の効率化が進んでいると感じている教職員の割合が、 A. 100%である。 B. 80%以上100%未満である。 C. 60%以上80%未満である。 D. 60%未満である。	C, Dの場合、その原因を分析し取り組みを再検討する。	9月、1月に調査する。 教職員対象

